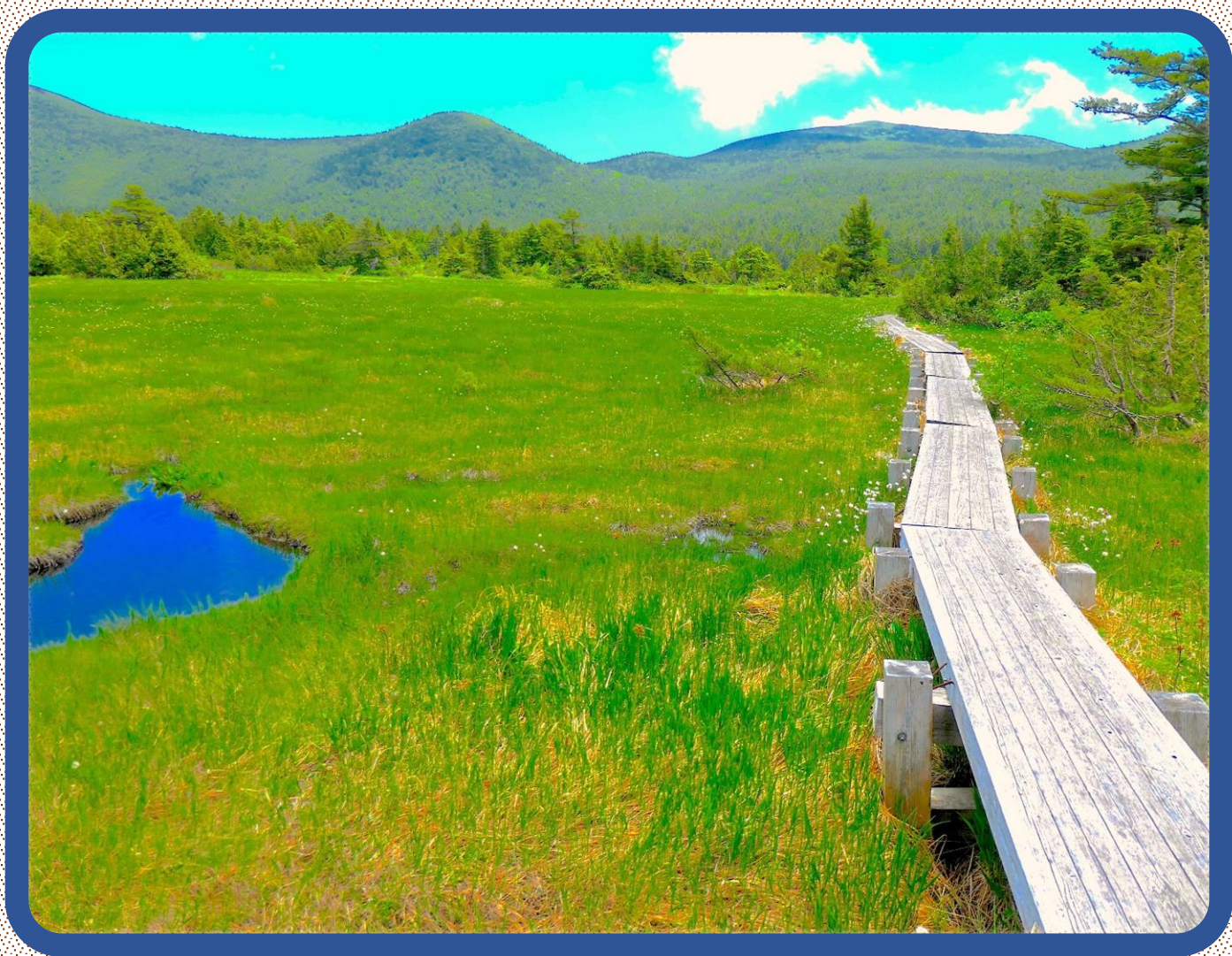


米沢市立病院 地域医療連携室だより



編集 米沢市立病院事務局地域医療連携室
〒992-8502 米沢市相生町6番36号
TEL(0238)22-2450(代表) (0238)22-2613(直通)
FAX(0238)22-2624
URL <http://www.yonezawa-city-hospital.jp/>

2022
令和4年8月
Vol. **40**



吾妻山の谷地平を歩く

撮影者：大串雅俊病院長

特集

整形外科の紹介
当院の心臓リハビリテーション
新任医師の紹介
令和4年度の地域医療連携室

Topics

夏号

整形外科の紹介

整形外科部長 川路 博之



地域の医療関係者の皆様には日頃から大変お世話になり、深く御礼申し上げます。米沢市立病院整形外科は2020年度は2人体制でしたが、2021年度に4人、そして、2022年度から5人体制になりました。そのため、手術件数も2020年度の133件から2021年度には238件と増加傾向です。

当科で特筆すべきことは、骨粗鬆症が基盤である脆弱性骨折の予防への取り組みです。脆弱性骨折は高額の治療コストを要するとともに要介護の主要原因です。その代表である大腿骨近位部骨折は日本において年間約20万例発生しています。骨折した高齢者では次の骨折（二次性骨折）のリスクが高くなるため、その予防は日本の整形外科にとって最重要課題の一つです。しかし、国内ではその予防に取り組む施設が少ないのが現状でした。2022年の診療報酬改定では、大腿骨近位部骨折の患者に対して、関係学会のガイドラインに沿って継続的に骨粗鬆症の評価を行い、必要な治療を実施した場合に算定可能な「二次性骨折予防継続管理料」が新設されました。

これにより、今後、各施設での二次骨折予防の取り組みが加速すると考えられますが、当院では以前からこの予防を行ってきました。予防としては、骨密度検査、血液検査による評価と骨粗鬆症に対する薬物療法、転倒予防といった治療が挙げられます。そのため、医師のみならず、多職種のメディカルスタッフが相互に連携しながら実施する必要があります。

当院には日本骨粗鬆症学会認定医が1人、また、骨粗鬆症リエゾンマネージャーの有資格者が看護師5人、理学療法士3人、放射線技師・薬剤師・管理栄養士、各1人ずつ、計11人います。山形県内では有数の有資格者数です。未治療の患者には入院中から薬物療法を開始し、また、退院後も継続的に治療を行ってきました。

「二次性骨折予防継続管理料」に関しては、手術治療を担う一般病棟において入院中に1回（1,000点）、リハビリテーション等を担う病棟で入院中1回（750点）、また、外来において1年を限度として月1回（500点）算定できます。つまり、急性期から回復期の病棟、その後、外来へと連携して骨粗鬆症治療を継続することが求められます。外来での投薬に関しては、かかりつけ医の医療機関にお願いすることも多く、今後、二次性骨折予防継続管理料の算定の有無についても情報を共有できるようにしたいと考えています。

話は変わりますが、整形外科の入院患者を対象として、医師、病棟看護師、リハビリテーションスタッフ、病棟薬剤師、管理栄養士、ソーシャルワーカー、そして、退院支援看護師による整形外科カンファレンスを週1回行っています。カンファレンスでは患者の経過、今後の治療方針、退院先、退院後の環境調整に関して検討を行っています。

以上のように、当科では多種職のスタッフが連携しながら診療を実施していることが一番の特徴です。この特徴を活かして、さらに地域住民の皆様のお役に立つ医療を行っていきたいと考えています。

今後とも、何卒、宜しくお願い致します。



当院の心臓リハビリテーション

当院は平成24年に心臓リハビリテーション(以下、「心リハ」)を立ち上げました。心リハチームは、心リハ指導士の資格を有する循環器内科医師、理学療法士を中心に、心臓血管外科医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、作業療法士、メディカルソーシャルワーカーなど多職種で構成されるチームです。

対象患者さんは、心筋梗塞や心不全などの方や、急性大動脈解離や弁膜症、下肢閉塞性動脈硬化症などの心臓血管外科の手術後の方などです。

当院では心リハチームで週1回カンファレンスを行っています。病態や治療経過、リハビリの状況について情報共有するとともに、それぞれの専門分野に関する知識や経験を活かし、一人ひとりの患者さんに適した指導や退院支援の方針を立てています。

当院の心リハは、急性期、回復期、維持期全ての病期を担っていることも大きな特徴です。入院中は、発症・術後早期から離床を開始し、疾患ごとに作成したパンフレットに沿って運動、服薬、食事、疾病管理についての指導を行い、退院・社会復帰を目指します。特に心不全は、再発の予防と早期発見のために体調管理が重要となります。そこで「心不全チェックリスト」を作成し、症状を点数化して、早期に心不全症状に気づいて受診することができるように入院中から指導しています。

退院後もご家族や在宅に関わるスタッフ、かかりつけ医の先生方にも協力を頂き、米沢市全体で周知できるように取り組んでいます。そして通院リハビリで、家庭生活への復帰や復職、趣味活動への参加を目標に運動を継続していきます。ご自宅での生活の中で、不安に思われることや自己管理の様子を伺い、医師、看護師、理学療法士がアドバイスさせていただきます。また、適切な運動強度を設定するために、CPX(心肺運動負荷試験)を行っています。

入院前と同じように生活できるようになったら心リハは終わり・・・ではありません。快適な生活の維持、再発予防のために心リハは生涯続きます。楽しく継続していくために、「維持期のリハビリ」を行っています。ウォーキングと芋煮会、太極拳など季節に合わせた活動を通して患者さんやご家族の意見交換の場となり毎回好評です。現在はコロナウイルス感染症により中止していますが、「明けない夜はない！」をモットーに感染対策をしながら行える内容を検討しています。今後も米沢市の地域医療を支えていくために、チーム一丸となって活動していきます。



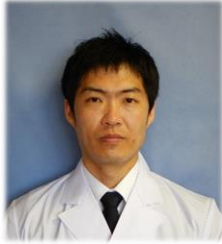
心不全チェックリスト		目標値		単位	
項目	測定	目標値	測定	単位	測定
呼吸数	18~24	20~24	18~24	回/分	18~24
血圧	110/70~130/85	110/70~130/85	110/70~130/85	mmHg	110/70~130/85
心拍数	60~100	60~100	60~100	回/分	60~100
体重	2週間以内	2週間以内	2週間以内	kg	2週間以内
下肢浮腫	なし	なし	なし		
夜間頻尿	なし	なし	なし		
胸痛	なし	なし	なし		
呼吸困難	なし	なし	なし		
倦怠感	なし	なし	なし		
食欲不振	なし	なし	なし		
めまい	なし	なし	なし		
動悸	なし	なし	なし		
失神	なし	なし	なし		
咳	なし	なし	なし		
痰	なし	なし	なし		
発熱	なし	なし	なし		
悪寒	なし	なし	なし		
嘔吐	なし	なし	なし		
下痢	なし	なし	なし		
便秘	なし	なし	なし		
尿量	2000ml以上	2000ml以上	2000ml以上	ml	2000ml以上
尿色	透明	透明	透明		
尿量	2000ml以上	2000ml以上	2000ml以上	ml	2000ml以上
尿色	透明	透明	透明		
尿量	2000ml以上	2000ml以上	2000ml以上	ml	2000ml以上
尿色	透明	透明	透明		
尿量	2000ml以上	2000ml以上	2000ml以上	ml	2000ml以上
尿色	透明	透明	透明		

新任医師の紹介

①渡邊 淳一郎

(わたなべ じゅんいちろう)

- ②外科
- ③東京都
- ④福島県立医科大学
- ⑤サッカー
- ⑥7月より米沢市立病院でお世話になっております。皆様との連携を大切に頑張りたいと思います。宜しくお願ひ致します。



- ①氏名(ふりがな)
- ②診療科
- ③出身地
- ④出身大学
- ⑤趣味・特技
- ⑥ご挨拶

よろしくお願ひします。

転出医師

千葉 裕仁(外科)

お世話になりました。

令和4年度の地域医療連携室

令和4年4月1日より、地域医療連携室長に吉田尚美医師、事務職員として石黒紘二主任が配属となり、地域医療連携室は、医師、看護師、事務職員による体制となっております。

現在は新病院開院を見据え、患者の前方支援から後方支援までワンストップで支援を行う「地域医療センター」としての役割を担えるよう業務見直しと改善に取り組んでいます。

その一環として、今年の秋頃に、地域医療連携室、医療相談室、患者支援センターを北外来棟に集約し、今まで以上に連携して業務を行う予定です。

執務室自体が移りますので、初めて訪問いただく際にはご迷惑をお掛けするかもしれませんが、電話番号やファクシミリ番号等は、現在と変わりなく利用できるよう計画しておりますのでご了承ください。(詳細は次号地域医療連携だよりでお知らせいたします。)

今後も、急性期医療を提供する地域医療支援病院として、地域の医療機関の皆様や患者との連携を更に強化すべく精進して参りますので、ご指導のほどよろしくお願ひ申し上げます。

